

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-126	小学校	理科	理科	第 5 学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	理科 504	未来をひらく 小学理科 5		

1. 編修の基本方針

社会の構造が急速に変化し、将来の予測が困難な時代を生きる今の子どもたちには、主体的に学習に取り組み、社会と積極的に向き合い、他者と協働して問題を科学的に解決していくことで、自らで未来の社会を切り拓くための資質・能力を育成することが求められます。

本書は、教育基本法が掲げる教育の目的及び目標の実現に向けて教科書を作成するにあたり、以下の基本方針を掲げて編修を行いました。

**理科の学びを通して、子どもたちが未来を切り拓くために
必要な力が身につく教科書をつくる。**

**自ら考え、社会と向き合い、他者と協働して問題を科学的に解決していく、
今の社会に求められる資質・能力を育てる教科書**

**① 自分の予想をもとに、その予想を解決する観察・実験の
方法を考える力を育てる。**(思考力・判断力・表現力等)

- ▶ 問題解決の学習の流れを意識して
- ▶ 国語科で学んだ力を生かす
- ▶ 見通しをもった学びの実現
- ▶ きめ細やかな学習の支援

**② 学習を系統的につなげながら、自然の事物・現象について
とらえる力を育てる。**(生きて働く知識・技能)

- ▶ 学びを系統的につなげる
- ▶ 科学的な概念や基礎技能を確実に習得する

**③ 獲得した知を社会に生かし、理科を学ぶ意義を実感して、
学び続ける態度を育てる。**(学びに向かう力、人間性等)

- ▶ 獲得した知を活用して学びを広げる
- ▶ 理科の学びの有用性や面白さを実感する

1

自分の予想をもとに、その予想を解決する観察・実験の方法を考える力を育てる。(思考力・判断力・表現力等)

問題解決の学習の流れを意識して

- ・巻頭に「**学習の進め方**」を設けるとともに、各単元とも、鉄腕アトムてつぷんアトムのナビゲーションで学習を具体的に展開することにより、子どもが問題解決の学習の流れを意識しながら、見通しをもって学習に取り組めるようにしています。(p8)

国語科で学んだ力を生かす

- ・子どもの思考力・判断力・表現力を育成するためには、国語科で学んだ力を理科の学びに生かすことが大切であるという考えに基づき、巻頭に「**自分たちの考えを伝え合い、学び合おう**」を配置し、「5年で大切にしたい言葉」を明示するとともに、比較したり、関係づけたり、見通しをもったり、ふり返ったりするときに使う言葉を示しています。(p7)

5年で大切にしたい言葉

- 「調べる条件だけを変えて、」
- 「いくつかの条件を整理して、」

- ・巻頭に「**ノートのとり方**」を配置し、子どもが問題解決の学習の流れに沿って、早い段階で自分の考えを記録していくことができるようにするとともに、各単元に観察カードやノートの記録例を豊富に掲載しています。(p9)

見通しをもった学びの実現

- ・子どもが自分の予想をもとに見通しをもち、その予想を解決するための観察・実験の方法を考えることができるように、「**計画しよう**」を設定し、子どもが観察・実験の方法を考える場面を大切にしています。(p32～33, 105～106, 157など)



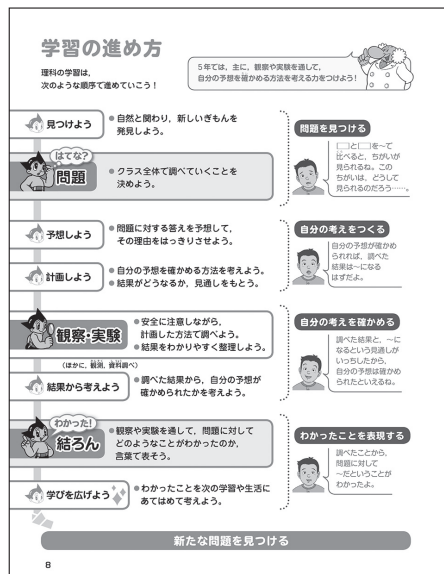
計画しよう

自分の予想を確かめるためには、何がどのような結果になることを調べればよいですか。

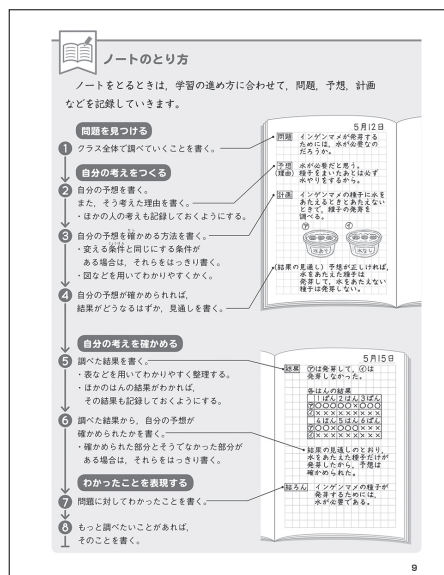


◀ p28

- ・主に、子どもが観察・実験の計画を立案する過程において、先生が子どもに問いかける場面を設定し、第5学年で育てたい思考力・判断力・表現力等を具体的に表現しています。(p68, 93, 128, 152など)
- ・問題解決の過程で必要となる支援については、お茶の水博士の語りかけで表現し、子どもの科学的な思考力をさらに伸ばせるようにしています。(p120, 157, 194など)



▲ p8



▲ p9

きめ細やかな学習の支援

例えば、空気について調べるとき、水や温度の条件をどのようにすればよいかな?



▲ p32

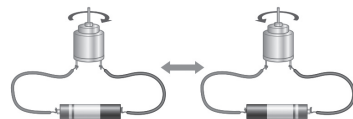
2 学習を系統的につなげながら、自然の事物・現象についてとらえる力を育てる。(生きて働く知識・技能)

学びを系統的につなげる

- ・巻頭には、前の学年で学習した内容の一覧を「4年で学んだこと」として掲載し、獲得した知を繰り返し用いることができるようにしています。また、巻末には、第5学年で学習した内容の一覧を「5年で学んだこと」として掲載し、1年間の学習をふり返るようにしています。
- ・各単元の初めには、既習の学習内容や次へつながる学習内容を「学習のつながり」で示し、学びの系統性を意識できるようにしています。
- ・これまでに学習した系統的な内容を想起する場面には、「思い出そう」を配置し、どの学習とどの学習をつなげて考えるのかをわかりやすく示しています。

思い出そう

4年で学んだこと



回路に流す電流の向きを変えると、モーターの回る向きが変わる。

▶ p152

科学的な概念や基礎技能を確実に習得する

- ・観察・実験などを通して獲得する知識については、「結ろん（わかった）」として明示しています。
- ・各単元の終末には、子どもが自分の習得の度合いを確認できる評価問題「確かめ」を配置し、基礎的・基本的な事項を確実に習得できるようにしています。
- ・巻頭には、**基礎技能の確実な習得**のために、器具操作などが掲載されているページの一覧を示し、子どもがいつでも参照できるようにしています。

わかった!



▲ p15

3 獲得した知を社会に生かし、理科を学ぶ意義を実感して、学び続ける態度を育てる。(学びに向かう力、人間性等)

獲得した知を活用して学びを広げる

- ・問題解決の学習によって獲得した知を、別のものにあてはめて考えたり、身のまわりの事象に応用して考えたりする「**学びを広げよう**」を設け、役に立つ理科の学びを実感できるようにしています。
- ・各単元の終末に配置した「確かめ」には、日常生活で見られる事象について、**獲得した知を使って説明する設問**を掲載しています。



学びを広げよう

理科の学びの有用性や面白さを実感する

- ・巻頭や巻末には、科学の専門家からの「メッセージ」を掲載し、理科を学ぶ楽しさや、理科の学びの有用性について、感じ取れるようにしています。
- ・学習内容と関連した科学研究の最前線や最先端の技術を紹介する「**広がる科学の世界**」を掲載し、理科の学びの先にある現在の科学技術に目が向くようにしています。
- ・巻末には、学習内容と関連する科学者の功績を「**科学の研究者たち**」として掲載し、理科の学びが科学技術の発展につながっていることを感じられるようにしています。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
全体	理科の学習を通して、真理を求める態度を養い、生きて働く知識・技能が確実に習得できるようにしました。(第1号)	全般
	主体的に理科の学習に取り組むことで、個人の能力と創造性を培い、科学的な思考力・判断力・表現力等が身につくようにしました。(第2号)	全般
	男女が平等に協働して学習する姿を表現し、自他の敬愛や正義と責任を大切にすることを養うようにしました。(第3号)	全般
	獲得した知を身のまわりの事象にあてはめて考える場面を積極的に掲載し、主体的に社会の形成に参画する態度を養うようにしました。(第3号)	全般
巻頭	第5学年の学習を進めるにあたり、第4学年で学習した内容の確実な定着を図るようにしました。(第1号)	p3
	考えを伝え合い、学び合うことの大切さを示し、自他が協力して学習を進めることの大切さをとらえられるようにしました。(第3号)	p7
	問題解決の学習の流れを示し、子どもが主体的に学習に取り組めるようにしました。(第2号)	p8
1 天気の変化	日本付近の雲の動きや降水量の変化を調べる活動から、天気の変化について真理を追究する構成にしました。(第1号)	p18～22
2 植物の発芽や成長	植物の発芽や成長に必要なものを調べる活動から、植物の発芽や成長について真理を追究する構成にしました。(第1号)	p26～49
3 メダカのたんじょう	メダカが子孫を残して次の世代へ生命を受け継いでいく仕組みの巧みさについて扱い、生命を尊ぶ心を養うようにしました。(第4号)	p62
● 花のつくり	アサガオとヘチマの花の事象提示から、花のつくりについて追究する構成にしました。(第1号)	p66～70
● 台風に備えて	台風の動きや降水量の変化を調べる活動から、台風について真理を追究する構成にしました。(第1号)	p74～80
わたしの研究	学習内容と関連する自由研究の進め方を示し、自主的・自律的に学習が行えるようにしました。(第2号)	p86～89
4 花から実へ	生物が子孫を残して次の世代へ生命を受け継いでいく仕組みの巧みさについて扱い、生命を尊ぶ心を養うようにしました。(第4号)	p97
5 ふりこ	ふりこをゆらして1往復する時間をはかる活動から、ふりこについて真理を追究する構成にしました。(第1号)	p102～113
	ふりこが身のまわりのさまざまなところに利用されていることを扱い、日常との関連をとらえるようにしました。(第2号)	p113～115
6 流れる水と土地	川の上流部と下流部の写真をもとに流れる水のはたらきについて考え、流れる水と土地について真理を追究する構成にしました。(第1号)	p118～132
	複数で協力して流れる水のはたらきを調べる方法を採用し、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うようにしました。(第3号)	p135
● 川と災害	自然災害とその対策について扱い、公共の精神に基づき主体的に社会と関わる態度を養うようにしました。(第3号)	p140～147
7 電流が生み出す力	電磁石を作ってその性質を調べる活動から、電磁石の性質について真理を追究する構成にしました。(第1号)	p148～164
	電磁石が身のまわりのさまざまなところに利用されていることを扱い、日常との関連をとらえるようにしました。(第2号)	p166
	電磁石の性質を利用した道具を作る活動を通して、創造性を培い、自主と自立の精神を養うようにしました。(第2号)	p167～p169

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
8 人のたんじょう	人の誕生について調べた情報を交流する場面を表現し、相互の考えを尊重して自主と自立の精神を養うようにしました。(第2号)	p181
	人が子孫を残して次の世代へ生命を受け継いでいく仕組みや新しい生命が生まれる喜びを扱い、生命を尊ぶ心を養うようにしました。(第4号)	p182～183
● 受けつがれる生命	さまざまな生物が子孫を残して次の世代へ生命を受け継いでいく仕組みの巧みさについて扱い、生命を尊ぶ心を養うようにしました。(第4号)	p186～187
9 もののとけ方	ものを溶かす活動から、ものの溶け方について真理を追究する構成にしました。(第1号)	p188～207
	日本で昔から行われている揚げ浜式製塩法を紹介し、日本の伝統と文化を尊重する態度を養うにしました。(第5号)	p214
巻末	第5学年で学習した内容の一覧を掲載し、1年間の学習をふり返って知識が確実に定着するようにしました。(第1号)	p220
	科学者の功績や、気象ミニ図鑑を掲載し、科学に関する幅広い知識と教養を身につけられるようにしました。(第1号)	p221～228

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. 学校教育法第21条への対応

2号：学校内外における自然体験活動の促進、生命及び自然の尊重、環境の保全

- ・学校内や学校周辺の自然について観察する場面を設定したり、地域の科学館や博物館の利用例を示したりしました。(p13, 69, 89, 127など)

6号：生活に必要な数量的関係の正しい理解、処理する能力の育成

- ・ふりがなが1往復する時間や電磁石が引き付けたクリップの数をそれぞれグラフに表し、数量的な関係を正しく理解できるようにしました。(p110～112, 162～163)

7号：生活にかかわる自然現象の科学的な理解、処理する能力の育成

- ・基礎技能については初出の段階で丁寧に扱い、適切な器具を用いて観察・実験を行い、自然現象を科学的に正しく理解できるようにしました。(p18, 57～58, 158～159, 191など)

2. その他の特色

- ・色覚等の特性をふまえた判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、文字（ユニバーサルデザインフォント）などの工夫により、全ての子どもたちに学びやすい紙面づくりに配慮しています。
- ・さまざまな人々との共生について理解を深める観点から、障がいのある方が描いた作品（障がい者アート）を教科書に掲載し、「パラリンアート」の活動に取り組んでいます。
- ・印刷には、再生可能エネルギーであるグリーン電力を使用するとともに、環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用し、地球環境への負荷軽減に配慮しています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-126	小学校	理科	理科	第 5 学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	理科 504	未来をひらく 小学理科 5		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

自ら考え、社会と向き合い、他者と協働して問題を科学的に解決していく、
今の社会に求められる資質・能力を育てる教科書

- ① 自分の予想をもとに、その予想を解決する観察・実験の方法を考える力を育てる。
(思考力・判断力・表現力等)
- ② 学習を系統的につなげながら、自然の事物・現象についてとらえる力を育てる。
(生きて働く知識・技能)
- ③ 獲得した知を社会に生かし、理科を学ぶ意義を実感して、学び続ける態度を育てる。
(学びに向かう力、人間性等)

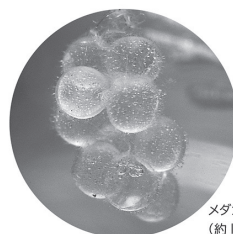
本書は、小学校学習指導要領に示された理科の目標及び内容を教科書に表現するにあたり、上の基本方針を掲げ、今の社会に求められる資質・能力を育成するために、以下のような観点を重視して編修を行いました。

1 未来を切り拓く力の育成に向けて 主体的・対話的で深い学びを実現する教科書

1. 自らの発見や疑問をもとに、子どもが理科の見方・考え方を働かせ、他者と関わりながら学習を進める。

子どもが主人公の紙面構成

- ・学習の主体である子どもを主人公にして、主人公の子どもが問題を見いだしたり、予想を立てたり、その予想を解決する方法を考えたりしながら、主体的に理科の学びが進むように全体を構成しています。(全般)



メダカのたまご
(約10倍)



りおさんの願い

メダカを飼って、
たまごからメダカの
子がかえるところを
見たいな。

◀ p53

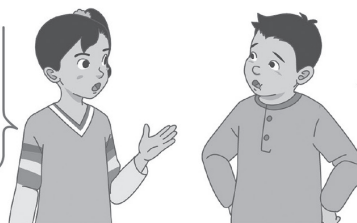
興味・関心を高める単元導入

- 各単元の導入では、身のまわりの事象について不思議に感じられる場面や、主体的に活動を行いたくなるような場面を設け、子どもが意欲的に学習に取り組めるように提示する事象を工夫しています。

考えを伝え合い、学び合う

- 巻頭の「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」では、比較したり、関係づけたり、見通しをもったり、ふり返ったりするときに使う言葉を示すことによって、考えを伝え合い、協働して学習に取り組むことの大切さを表現しています。(p7)
- 各単元において、子どもたちが**理科の見方・考え方を働かせながら**、それぞれの考えを伝え合い、場合によっては自らの考えを修正しつつ、知を獲得していく姿を丁寧かつ具体的に表現しています。(p32, 110～113, 190～192など)

グラフを見ると、おもりが1個のときと2個のときで、ふりこの1往復する時間はほとんど変わらないよ。



見通しとちがう結果になったから、ふりこの1往復する時間は、おもりの重さによって変わらないということだね。

▲ p7

◀ p148

関係づける言葉

- 「～をもとに考えると、」「～をつなげて考えると、」
- 「□の実験では、～という結果だったから、」
- 「なぜなら、□は～だったからです。」

見通しをもつ言葉

- 「問題の答えは、～だと思います。」
- 「自分の予想を確かめるには、～という方法で調べればよいです。」
- 「自分の予想では、調べた結果は～になるはずですよ。」

観察・実験の位置づけ

- 観察・実験は、問題に対する**子どもの予想を確かめる手段**として位置づけ、子どもの発想を大切に、入手しやすく、扱いやすい器具や材料で行える平易な方法を採用しています。(p29, 107～109, 129など)

2. 獲得した知を次の学習や日常生活に活用し、学びと社会をつなげる。

獲得した知を活用する場面の確保

- これまでに学習した内容を系統的につなげる場面には、「思い出そう」を配置し、どの学習とどの学習をつなげて考えるのかをわかりやすく示しています。(p127, 150, 152, 174など)
- 問題解決の学習過程に「**学びを広げよう**」を明確に位置づけたり、単元末の評価問題「**確かめ**」に**活用の設問**を掲載したりすることによって、獲得した知を活用する場面を確保し、単なる知識の習得では終わらない、理科の面白さや有用性を実感できるようにしています。(p22, 113, 201など)



学びを広げよう

日常生活や社会との関連の重視

- 各単元においては、学習内容と関連した身のまわりの事象を科学読み物で紹介し、**理科の学びの価値を実感**できるようにしています。

他教科との関連

- 算数科でも学習する内容を「算数とのつながり」マークで示し、教科間で横断的に学習を定着させられるようにしています。
- 巻頭には、「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」を掲載し、国語科で学習した力を生かすことの大切さを表現しています。(p7)
- 水の量と溶ける食塩の量との関係を比例の考えで解説し、算数科で学習する内容を活用できるようにしています。



算数とのつながり

中学校理科との関連

- 各単元の初めに「学習のつながり」を示し、中学校につながる学習内容の系統性を意識できるようにしています。

情報化社会への対応

- タブレットパソコンを用いた観察など、情報化社会におけるICT機器の活用場面を積極的に掲載しています。
- インターネットのウェブサイトを利用して学習を進められる箇所には、「まなびリンク」マークを付して、活用を促すようにしています。



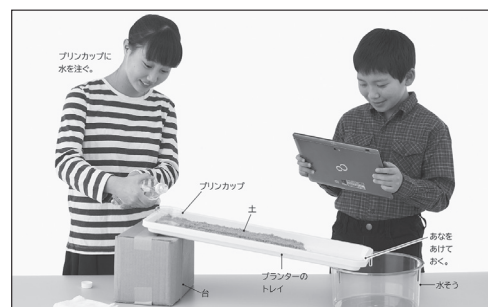
学習のつながり

3年	太陽と地面
4年	天気による気温の変化 水のゆくえ
5年	1 天気の変化
中学2年	●台風 ^{たいふう} に備えて ^{そなへ} 気象観測 ^{きしょうかんそく} ／天気の変化／ 日本の気象／自然のめぐみと気象災害

◀ p10

環境教育への対応

- 学習内容と関連する環境保全の取り組みなどを資料や科学読み物で紹介し、「地球となかよし」マークを付して、子どもが地球環境の保全を意識できるようにしています。



▲ p129



メダカとかんきょう

キャリア教育への対応

- 巻頭や巻末には、理科の学びを通して、科学の専門家になった先生からの「メッセージ」を掲載し、理科を学ぶ楽しさや、理科の学びの有用性について、感じ取れるようにしています。
- 巻末には、学習内容と関連する科学者の功績を「科学の研究者たち」として掲載し、理科の学びが科学技術の発展につながっていることを感じられるようにしています。(p221)

道徳教育との関連

- メダカや人の誕生について調べていく活動や日本各地の川の観察などを通して、自然を愛する心情を育み、生命を尊重する態度が養われるようにしています。
- サケやムサシトミヨなどの在来魚を守る活動や伝統的な製塩法などを紹介し、郷土を愛する心を育み、日本の伝統と文化を大切にすることが養われるようにしています。
- グループでの話し合い場面など、他者と協働して学習を進める活動を多く取り入れ、共に学ぶ態度が養われるようにしています。

安全への配慮

- 安全指導と危険防止については、特に留意し、安全に対する配慮が必要な箇所には目だつ「注意」マークを付すとともに、怪我や火傷などのおそれがある箇所には「きけん」マークを付して、注意・警告を表現しています。

注意



人権への配慮、特別支援・ユニバーサルデザイン

- 男女が平等に協働して学習する姿を表現し、性別による偏りがないように配慮しています。
- 色覚の特性をふまえた判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、文字（ユニバーサルデザインフォント）などの工夫により、全ての子どもたちに学びやすい紙面づくりに配慮しています。

組織・配列・構成

- 教材の入手のしやすさや扱いやすい時期、学習内容の関連性などを考慮し、子どもが無理なく学習できるような配列と構成をしています。
- 各単元の初めには、既習の内容や次へつながる内容を「学習のつながり」で示し、学びの系統性を意識できるようにしています。
- 年間配当時数の1割程度減じた時数でも授業が進められるように考えて作成しています。
- 夏休みの時期に該当する箇所には、「わたしの研究」を配置し、夏休みの自由研究や総合的な学習の時間に対応できる内容で構成しています。
- 発展的な学習については、「はってん」マークを付して当該学年などの学習指導要領に示す内容と明確に区別し、個に応じて学習内容をさらに深められるようにしています。

はってん 中学2年

表記・表現

- 本文や科学読み物は親しみやすい敬体で、子どもが主体的に取り組む観察・実験などは常体で記述し、平易・簡潔・正確に表現しています。
- 学習上、重要な用語については、太字とマーカー処理で強調しています。
- 国語科での漢字指導と関連させ、当該学年の配当漢字については、単元初出に振り仮名をつけて使用し、できる限り混ぜ書きを避けるようにしています。

印刷・造本

- A4判に近い大判を採用し、ゆとりのある紙面にしています。
- 写真が多く掲載されるため、教科書が重くならず、また、裏ページの印刷が透けて読みにくくならないように、紙質に配慮しています。
- 長期間の使用に十分耐えられるように、堅牢で耐久性の高い製本をしています。

指導書の工夫

- ・教師用指導書には、子どもの思考力を育てるワークシートを添付します。このワークシートは、教科書の全ての問題解決の流れに対応し、先生ご自身でカスタマイズができるデータになっています。
- ・教師用指導書には、地域指導資料を添付します。この資料は、地域教材を生かした指導をする際に役立つデータになっています。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
雨がとどける春	B (1) ア (エ)	p1 ~ 2	1
巻頭	指導計画の作成と内容の取扱い 1 (1) (2), 2 (1) (2) (5)	p3 ~ 9	
1 天気の変化	B (4) ア (ア) (イ), イ 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (2)	p10 ~ 25	7
2 植物の発芽や成長	B (1) ア (ア) (イ) (ウ), イ	p26 ~ 51	17
3 メダカのたんじょう	B (2) ア (ア), イ	p52 ~ 65	6
● 花のつくり	B (1) ア (エ), イ	p66 ~ 73	4
● 台風に備えて	B (4) ア (イ), イ 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (2) (4)	p74 ~ 85	4
わたしの研究	指導計画の作成と内容の取扱い 2 (6)	p86 ~ 89	
4 花から実へ	B (1) ア (エ), イ	p90 ~ 101	4
5 ふりこ	A (2) ア (ア), イ	p102 ~ 117	11
6 流れる水と土地	B (3) ア (ア) (イ) (ウ), イ, 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (3)	p118 ~ 139	12
● 川と災害	B (3) ア (ウ), 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (4)	p140 ~ 147	1
7 電流が生み出す力	A (3) ア (ア) (イ), イ	p148 ~ 171	13
8 人のたんじょう	B (2) ア (イ), イ, 指導計画の作成と内容の取扱い 1 (4)	p172 ~ 185	6
● 受けつがれる生命	B (1) ア (エ), B (2) ア (ア) (イ)	p186 ~ 187	1
9 もののとけ方	A (1) ア (ア) (イ) (ウ), イ, 指導計画の作成と内容の取扱い 3	p188 ~ 215	18
広がる科学の世界	A (1) ア (ウ)	p216 ~ 217	
上皿てんびんの使い方	A (1) ア (ア) (イ)	p218 ~ 219	
5年で学んだこと	A (1) ~ (3), B (1) ~ (4)	p220	
科学の研究者たち	A (2) ア (ア), A (3) ア (ア), B (1) ア (ウ), B (2) ア (ア), B (3) ア (ア), B (4) ア (ア)	p221	
気象ミニずかん	B (4) ア (ア) (イ)	p222 ~ 228	
計			105

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-126	小学校	理科	理科	第 5 学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	理科 504	未来をひらく 小学理科 5		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項	ページ数
73	(資料) いろいろな植物の花粉 (スギ)	1	中学 1 年：第 2 分野 (1) ア (イ) ㊦「裸子植物」(内容の取扱い)	0.25
155	(資料) エナメル線のまき方と電磁石の極	1	中学 2 年：第 1 分野 (3) ア (イ) ㊦「コイルの回りにできる磁界」	0.25
155	(チャレンジ) コイルやエナメル線に電流を流して調べてみよう	1	中学 2 年：第 1 分野 (3) ア (イ) ㊦「コイルの回りにできる磁界」	0.75
167	(資料) 検流計の仕組み	1	中学 2 年：第 1 分野 (3) ア (イ) ㊦「コイルの回りにできる磁界」	0.25
168	(道具作り) コイルモーター	1	中学 2 年：第 1 分野 (3) ア (イ) ㊦「コイルの回りにできる磁界」	0.5
193	(資料) 食塩を水にとかしたときのイメージ図	1	中学 1 年：第 1 分野 (2) ア (イ) ㊦「溶解度」	0.5
207	(資料) 食塩やミョウバンが水にとける量を表したグラフ	1	中学 1 年：第 1 分野 (2) ア (イ) ㊦「溶解度」	0.5
213	(資料) けっしょう	1	中学 1 年：第 1 分野 (2) ア (イ) ㊦「溶解度」	0.25
216 ～ 217	(広がる科学の世界) 海水をろ過して飲み水を取り出せる!?	1	中学 1 年：第 1 分野 (2) ア (イ) ㊦「溶解度」 中学 3 年：第 1 分野 (7) ア (イ) ㊦「自然環境の保全と科学技術の利用」, 第 2 分野 (7) ア (イ) ㊦「自然環境の保全と科学技術の利用」	2
222	(気象ミニずかん) 雲ができるわけ	1	中学 2 年：第 2 分野 (4) ア (イ) ㊦「雲の発生」	0.5
225	(気象ミニずかん) つゆ	1	中学 2 年：第 2 分野 (4) ア (ウ) ㊦「日本の天気の特徴」	1
226	(気象ミニずかん) もう暑	1	中学 2 年：第 2 分野 (4) ア (ウ) ㊦「日本の天気の特徴」	0.5
227	(気象ミニずかん) 冬に見られるとくちょう的な天気	1	中学 2 年：第 2 分野 (4) ア (ウ) ㊦「日本の天気の特徴」	0.5
合 計				7.75

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容